二次的所見とは

がん遺伝子パネル検査のように、複数の遺伝子を解析の対象として検査を行った場合、解析は「がん」細胞の特徴や性質を調べる目的で行いますが、家族で共有する遺伝子変化、たとえば**遺伝性腫瘍 (遺伝する体質によるがん) に関連した遺伝子**の変化などが見つかる場合があります。このように検査の本来の検査目的以外で発見される所見を、「**<u>二次的所見</u>**」(secondary findings) あるいは偶発的所見 (incidental findings) と言います。

がん細胞の中だけで起こった遺伝子異常を、家族が共有することはありません。けれども、遺伝性腫瘍 (遺伝する体質によるがん) の発症に関連した遺伝子変化を生まれつき持っていて、遺伝的な状態が原因でがんを発症しやすくなっている場合があります。

がん遺伝子パネル検査の解析では、発見した遺伝子の変化が病的なものかを検討します。その過程で病的な変化ががん細胞の中だけで起こったものか、生まれつき持っていたものであるのかが判明する場合があります。

このような、生まれつき持つ「病的な変異」によって、がんを発症しやすい状態 (体質) であったとき、この状態は家族で共有している可能性があります。患者さんや患者さんの血縁者の健康やがん関連疾患について重要と思われる結果が判明した場合で、かつ有効な対処法があると考えられる場合には、その病気の専門家や担当医などと慎重に検討した上で、主治医や遺伝カウンセリングを通してご説明させていただく場合があります。
※遺伝カウンセリング外来は保険適用外です。

<u>病的変異が見つかった場合の対応方法については、</u>
<u>がん遺伝子パネル検査を受ける前にゲノム医療担当医にご相談ください。</u>

■遺伝カウンセリング外来に関するお問い合わせ先
メディカルサポートセンター
電話：044-977-1951 (直通)
※専用電話のため、川崎市内の方も市外局番「044」をお付けください。

受付時間：月曜～金曜日　14時～16時　（ただし、休診日は除く）
※土・日・祝日、年末年始（12月29日～1月3日）は対応できませんので、ご了承ください。

【参考資料】
国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development
ゲノム医療における情報伝達プロセスに関する提言
ーがん遺伝子パネル検査と生殖細胞系列全ゲノム/全エクソーム解析についてー (初版)
https://www.amed.go.jp/content/000031253.pdf
https://www.amed.go.jp/news/seika/kenkyu/exome_20180411.html